

City Life NEWS

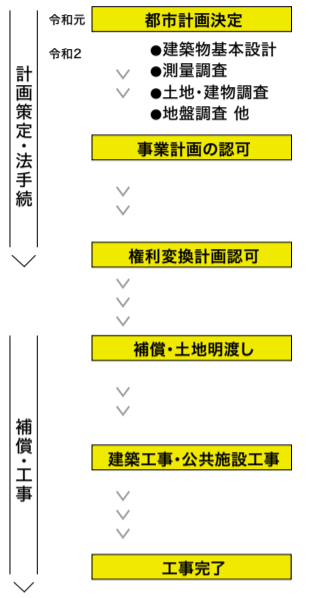
全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか？身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS
で検索



【今後のスケジュール】



※計画案は現時点のものであり、決定事項ではありません。今後、この案をもとに検討を進めていく中で変更となる場合があります。

MONTHLY OF TOPICS

千里丘駅西地区の再開発が本格始動 2028年完成を目指す

摂津市は今年2月、「千里丘駅西地区市街地再開発事業」について決定した。約60年前の都市計画決定に端を発した事業がついに本格始動。新たな市の象徴として期待される同地区は、2028年頃の完成を目指す。

JR千里丘駅の駅前には、南北に走る京都線によって東地区と西地区に分かれ、先に再開発が行われた東地区は、ロータリーや住宅と商業が複合する施設「フォルテ摂津」などが整備されている。一方の西地区は、府道正雀停車場線や千里丘中央線といった幹線道路は整備されたが、駅前には古い木造建築が密集している。道路が狭いた

め自動車の送迎による渋滞も多く、歩行者の安全性についても問題視されている。土地活用の面でも、近年は駐車場や空き地が増えており、駅前中心部という立地を生かし切れていない。また、最近は大阪健康医療都市のまちづくりなど周辺地域のマンション開発が進んだこともあって、駅の乗降客は2013(平成25)年以降、増加傾向にあり、都市機能の改善のため再開発の必要性が高まっていた。

まちづくりの検討は、1988(昭和63)年から約30年の間は地権者らによる準備組合によって進められてきたが、経済状況の悪化などの理由によって活動の規模が縮

小し、事業化に至らないまま解散した。2018(平成30)年、摂津市は市施行の再開発事業方針を決定。同年には計画案の見直しを行い、昨年は都市計画原案の説明会を実施。今年2月に都市計画を決定した。

開発地区は府道正雀停車場線と大阪高槻京都線に囲まれた場所で、市が施行するのは約1.5ヘクタール。都市計画の案では、約0.3ヘクタールのロータリーや道路を整備し、約0.6ヘクタールの「I街区」、約0.1ヘクタールの「II街区」に分け、I街区には32階建て280戸の超高層マンション、自由通路によって駅と直結した3階建ての

商業施設、駐車場を整備。II街区には5階建ての商業施設を予定している。

今年3月には事業協力者を募集し、7月16日、最優秀提案者に大和ハウス工業を代表とする共同企業体が選定された。今後は建築物の基本設計や測量調査など計画の策定や法手続きを進めていく。市の担当者は「この再開発は摂津市として新たな拠点づくりであり、核となる重要な事業です。商業施設の内容をはじめ詳細についてはまだ計画の段階で、これから検討していくことになります。今後にご期待ください」と話している。

※計画案の内容は公表時点のもの。変更の可能性あり(イメージなども含む)。



各市のハザードマップ

大雨や台風時の浸水被害区域がわかる ハザードマップや防災ブックの確認を

警報をはるかに超える大雨等が予想され、重大な災害が発生するおそれ著しく高まっている場合には「特別警報」が発表される。7月に起こった「大分県内豪雨被災」ではこの「特別警報」が出され、最大級の警戒が呼びかけられた。このようにその地域にとって数十年に一度の大雨になると、大きな災害が起こってしまう危険性がある。

またこれからの8月、9月は台風シーズン。北摂でも2018年9月4日に上陸した台風21号による暴風で屋根が飛ばされたり、停電が起こったことは記憶に新しい。北摂各市では、このような水害、災害時に役立つ

つ、ハザードマップや防災ブックを発行し、市民に注意を呼びかけている。

ハザードマップには「洪水浸水想定区域図」や「土砂災害警戒区域図」が記されているので、自分が住むエリアをチェックしておきたい。また水害の氾濫には河川そのものの水位が上昇して起こる「外水氾濫」と市街地に降った雨水の量が都市の処理能力を超えることで発生する「内水氾濫」がある。内水氾濫を防ぐためには、普段から下水道の側溝や雨水ますの清掃を行っておきたい。詳しくは各市の防災ブックやハザードマップを確認しておこう。

【各市の注意箇所や対策】 ※詳しくは各市のハザードマップ、ホームページで確認を。

高槻

高槻市内を流れる河川(淀川、芥川、女瀬川、檜尾川)のほか、隣接する茨木市と島本町を流れる河川(安威川、水無瀬川)がハザードマップの対象河川となっている。また、南部を流れる河川は、天井川(住んでいる場所よりも川底の方が高い河川)となっているところもあり、水害の危険性が高くなっている。一方で、北部は山間地域のため、土砂災害の危険性が高くなっている。

市の対策としては「はにたん」にげます」を合言葉に、水害・土砂災害の基礎知識やハザードマップの活用方法等について解説した学習動画「はにたんと学ぶハザードマップ」を、市HP上に掲載。また、正確な災害情報を素早く入手する手段の一つとして、本年6月に開設された高槻市公式LINEアカウントへの登録を推進している。家庭でできる水害への備えとしては、浸水対策に効果のある土のうを市内各所の土のうステーションに設置して活用を呼びかけている。

茨木

茨木市で激しい降雨時に、市内を流れる安威川や茨木川等の河川氾濫による浸水被害が想定され、茨木川・安威川の合流点付近では、3m以上5m未満の浸水が想定されている。また北部地域の山間部においては土砂災害警戒区域が点在し、土砂災害が発生するおそれがある。これらの災害による市民の避難行動や

自助の取り組みを支援するために、市ではこれまでに広報誌による啓蒙のほか、防災情報の収集方法や、避難行動に関する啓蒙チラシの全戸配布を行なっている。

また、令和2年7月より、インターネットを利用しない(できない)人を対象に、災害時の避難情報や緊急情報等を固定電話やファックスへ自動配信するサービス(登録制)を開始。当該サービスのご利用を希望する場合は、茨木市危機管理課のHPにて対象者などを確認のうえ申請書をダウンロードするか、危機管理課(TEL.072-620-1617)まで連絡を。

摂津

摂津市は激しい降雨時に淀川、安威川、山田川、正雀川、大正川、境川が氾濫のおそれがある。課題としては、市域の大部分が浸水してしまうこと、避難所の収容人数が逼迫していることが挙げられる。

市の対策としては、市民に分散避難の考え方を周知していくこと、また、自主防災組織(自治会)に対して地域版防災マップの作成支援に取り組んでいる。2020年4月には、摂津市内の全事業所・全世帯に防災タウンページを配布(上記写真)。洪水ハザードマップや避難所・緊急避難場所マップ等が掲載されている。同冊子の内容はwebサイトでも見ることができる。「摂津市防災タウンページ」で検索。

非常時主な持ち出し品リスト

- 飲料水(500ml程度 家族各1本ずつ)
- トイレ用ペーパー、ティッシュ等
- 防寒具、雨具、携帯カイロ
- 懐中電灯・予備電池
- ビニール袋、ポリ袋、生理用品
- 携帯食(ビスケット、チョコレート等)
- 保険証・メモカード
- 充電器、モバイルバッテリー
- 常備薬、お薬手帳
- 現金(小銭)・通帳・印鑑
- マスク、消毒ジェル・スプレー等
- タオル、下着、靴下